2019 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年　　３月　　30　日
● 事　業　名　：　もじうみ里海探検隊　　障害児等の体験格差解消事業
● 資金分配団体　：　公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人あそびとまなび研究所
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗＊
１．障害児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①水辺の自然体験に参加した障害児や施設等の子供とその友人関係にある子供の数 ②水辺の自然体験を見学したり、情報を得た障害児や施設等の子供とその友人関係にある子供の数 ③水辺の自然体験に参加・見学した障害児や施設等の子供とその友人関係にある子供の満足度 ④水辺の自然体験活動に協力したサポーターの数	①地域全体で 200 人（初期値から 7 倍） ②地域全体で 2000 人（初期値から 5 倍） ③満足度調査（エンドラインベースライン比較） ④地域全体で 50 人（初期値から 5 倍）	2023 年 2 月	① のべ数としては達成 ② 半分程度　コロナで現場に入ることが難しいため、活動の伝達、啓発活動などでの周知などを実施 ③ 非常に高い ④ 半数程度　コロナ緊急事態宣言などで活動参加が難しい。 ⑤ 達成　コロナで規模を大きくすることが難しいため、活動回数を増やして対応	1

	⑤コロナ禍により、参加者側の活動参加に対する精神的ハードルが下がり、コロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	⑤活動規模の調整・回数の増加（約 2 倍）			
2 -1. 障害児やひとり親家庭等の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学した保護者の数 ②水辺の自然体験を見学した保護者の満足度 ③水辺の体験活動についての説明などを聞いて、内容や目的を理解する（啓発活動） ④コロナ禍によって、下がっていた参加者側の活動意欲がコロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	①地域全体で 50 人（初期値から 5 倍） ②満足度調査 ③地域全体で 500 人 ④コロナ感染への不安解消に向けたコミュニケーション機会の増加	2023 年 2 月	① 達成 ② 非常に高い ③ 達成 ④ 達成（予想以上に安定している。コロナで学校などへ行けない分、コミュニケーションの取れている活動仲間への信頼が増している？ コロナで他の活動が途絶えているので、結果的に問い合わせは多く、関心も寄せられている。	1
2-2. 障害児支援施設や児童養護施設、ひとり親支援団体等のスタッフが、水辺の自然体験について、その	①水辺の自然体験を見学したスタッフの数 ②水辺の自然体験を見学したスタッフの満足度 ③水辺の体験活動についての説明などを聞いて、内容	①地域全体で 30 人（初期値から 5 倍） ②満足度調査 ③地域全体で 1000 人	2023 年 2 月	① 数名参加　海の活動現場そのものに出向くことは、コロナ禍にあって難しいので、他の活動会場へ来場していただくなど、丁寧に活動の紹介をし、理解を促している。 ② 非常に高い。大勢の参加はコロナで叶わないので、状況を他の支援者へ伝達してくれている。	1

有効性を認識している状態となる。	や目的を理解する（啓発活動） ④コロナ禍によって、下がっていた参加者側の活動意欲がコロナ禍前と同等の参加状況に近づいている状態	④コロナ感染への不安解消に向けたコミュニケーション機会の増加		実際の見学や、参加を希望している施設スタッフも少なくないがコロナ禍で思うように進まない。 ③ 達成 ④ 達成　予想以上に安定している。信頼していただいている。活動見学などの依頼がある。	
3.実行団体間や連携協力団体とのネットワークが深まる。	①実行団体間や連携協力団体と定期的なコミュニケーションがある団体数 ②地域の連携協力団体等と交流したり、視察したり、協議する会議等の回数 ③実行団体間の事例等を共有する啓発活動等の回数	①10 団体 ②2 回/年 ③関連団体全体で、年 2 回以上開催 テーマ別分科会活動年 3 回	2023 年 2 月	① 達成（活動会場：もじ少年自然の家、玄海青年の家、活動支援：NPO 法人キッズワーク、NPO 法人ドットジェイピー、活動紹介：市民活動サポートセンター、社会福祉協議会、子ども家庭局青少年課、環境ミュージアム、あしたのつばさ・こどもの城（放課後等デイサービス）、公営競技局（若松ボート、子ども食堂くれかきっちん）、近隣小中学校、高校、大学（自由ヶ丘高校、九州女子大）、など ② 達成、コロナなので個々に実施（集合しない） ③ 達成　活動を継続する中で確実に交流が行われ、関係は密になっている。活動紹介：グリーンパークなど活動会場にて	1
4 資金分配団体と様々な情報交換が行われ、あそびとまなび研究所のスキルアップや組織	①資金分配団体との視察研修や、会議の開催や情報提供などサポートを受けた回数など ②　周辺団体との関係強化	①年に 2 回の資金分配団体と全実行団体による会議の開催 ②月に 1 回以上の資金分配団体との対面	2023 年 2 月	① 達成 ② 達成 ③ 達成 ④ 達成 参加者の経済的負担が参加のネックとなって	4 「経済的基

基盤強化が図られ、活動の公益性と持続可能性が高まる。	と、経済的基盤を得る	会議（ネットによる会議を含む）の開催 ③活動現場における視察指導（年１回） ④周辺団体との連携の質の変化（有機的な連携、経済的支援など）		いるケースがあるので、対策が必要 （親に決定権があるため、有料、である場合に子供に案内が届かず、参加ができないケースが出ている） コロナが長引いて、子育て家庭において、経済的な不安はますます強まっている。	盤」のみをのぞいては、１
５．支援地域において、新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、障害児や児童養護施設等の子供が安全に水辺の自然体験に参加できる状態となる.	①器材・設備等の拡充及び必要な人材を確保することで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	①支援対象地域全体で新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じて事業を実施している状態	2021年７月	① 達成 感染症対策の機材、資材などはほぼ揃っている。活動規模の縮小、分散に際して一部補充が必要な部分が残っている。 看護師など専門家により、活動自体の感染症対策は十分に講じられている。 コロナ禍の長期化により、直前での活動の中止など、混乱が続いているが、活動設定日以外での面談や、メールなどで参加者と運営スタッフ間のコミュニケーションは取れており、関係は安定している。 コロナ自粛の合間を縫って、活動を計画、実施できている。	1

＊進捗状況：１計画より進んでいる 、２ 計画どおり進んでいる 、３計画より遅れている、４その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐短期アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
初年度を踏まえて、ビジター参加者の受け入れ、活動回数の増大などを行い、参加者数も増大した。 コロナ禍にあって、密を避け、丁寧に活動を周知、拡大していくためには、相応の広報、事務負担、活動運営スタッフ数が必要となっている。
5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
本事業では、この課題に対してコロナに先駆けて取り組んでいたわけで、本事業の甲斐あって、コロナの対応も十分行うことができ、現状では資金的にも、マンパワー的にも充実している。今後もタイムリーに、大小様々な子どもたちの活動機会を生み出していきたい。 私たちの活動地域は、何度も緊急事態宣言、蔓延防止となり、その度に活動の見直し、調整が必要となっています。 地域柄、子供が多く、子供達の日常への対処の必要のあることから、可能な限り近隣地域での見守り活動や、地域での対面での情報収集、新聞やケーブルテレビ、HP や FB など、様々なメディアを通じて子どもたちや、子供たちに関わる人々への情報発信を行っている。 夏休み直前に、コロナクラスターのため始業が遅れたり、近隣小学校や幼稚園、保育所の閉鎖などが相次ぎ、新学期早々リモート授業が開始されるなど、子供達の環境は激変し、保護者の動揺も大きい。スタッフ間での情報共有、丁寧な情報発信など、地域の情勢に合わせた対処を工夫している。 コロナ緊急事態宣言で公共施設は、ほぼ閉鎖、民間施設は自粛が続き、全く使用できない場所が大半となっている。（2021 年 9 月現在） 今年度は昨年よりはマシであるが、公共施設はいつ閉まるかわからない。多様な会場、複数回の活動予定日設定、規模の調整など、臨機応変に活動が実施できるような工夫を重ねている。

昨年は初年度で、活動を慎重に組み立てるため、活動は原則、あらかじめ参加登録し、研修を行った家族のみで行っていた。（一部はビジター受け入れ）2 年目は、子供たちの海活動の機会はとても少なくなっているため、なるべく多くの参加者と出会うことを目標に、夏休みに市内全域の小学生に公募をかけての「探検隊体験活動」を準備していた。3 年目は、継続参加の子供達向けに活動の難易度を上げつつ、活動のエリアを小倉の街中へ拡大、また、ビジター参加者の参加機会の確保を行っていきたい。

2021 年度は、企画、広報等、半年前から準備していて、心待ちにしていた夏の活動が台風とコロナで実施できず、急遽一ケ月後に準備した延期日程までが、中止となったのは非常に残念であった。
夏休みの活動で、多くの参加者が来場した。コロナや台風で延期、中止にならなければ、100 名以上の参加者がある予定であった。活動に関心を持ち、参加を楽しみにしてくれた多くの親子に、今後も活動を案内し実際に活動への参加を実現させていきたい。
7 月参加者数　7/17　ビジター申し込み 10 家族　大人 12 人子ども 18 人　　活動実働数　大人 30（スタッフ含む）子供 25
8 月参加希望者数　8/9　ビジター申し込み 20 家族　大人 25 人子供 34 人　　探検隊参加予定数　大人 16 人　子ども 16 人
合計参加希望者総数　大人 41 人　子ども 50 人　合計 91 人（密対策で時間制で入れ替え）
2022 冬の取り組みは、参加希望が非常に多かったので、同じ内容を 3 回実施した。（落ち葉で火おこしと焼き芋）乳幼児を含む家族での参加希望も多いので、二部構成にするなど、活動形態を工夫していく。
また、2021 年度は、従来型の大型イベントや全市広報がコロナで停止となったため、近隣への個別広報を丁寧に行っている。2022 年度は、現時点では、地域のお祭りやイベントなど、開催予定であるので、できる限りの広報を行っていきたい。

参加者募集と共に、活動の周知、近隣高校や大学へのボランティアスタッフの募集、なども同時に行っている。
地域の様々な団体への広報を試み、（保育園、学童、放課後等デイサービス、市内全域の小学校、中学、高校、大学、市民センターや自治会、など）活動広報の可能な場所を開拓している。
日常の活動現場は大学キャンパス内であり、多数の学生や近隣高校生、中学生も行き来していることから、活動の予定の案内や、子供達と過ごすことが多い若手の活動内容の設計そのものへの参画も、彼ら自身のスキルアップや、子供達の成長や参加動機ともなり、とても重要な事業の構成要素となっている。
7 月には、B＆G の専門家からの安全指導を受けることができた。今年も継続予定。秋口に、NHK の取材があるなどし、活動を実施した。

冬場の活動回数を増やし、小規模の自然地での活動や、里山活動を増やし、予定通り実施した。
とにかく何らかの形で子供たちや学生たちとの活動機会を補償していきたい。

発達障害支援施設の支援者とは、いきなり海は無理でも、街中での日常活動や、里山や近隣での活動からスタートしてみようという、取り組みが始まっている。子ども食堂活動や、団体拠点のあるキャンパス内、近隣都市公園での活動に、子供達と引率者の参加が実現している。発達障害のある子供たちとの活動は、不確定な要素も多く、丁寧に実施する必要があり、とても時間がかかるが、確実に進んでいる。障害者支援の専門家との活動は、学ぶべきことも非常に多い。子どもたちが落ち着いてくる秋から冬にかけての、現場実施が望ましい。
関係団体とのネットワークの充実について
コロナ禍で、大人数が集まる形の交流は難しいが、個別の打ち合わせや視察、ブレストを行うなど、横につながる形でのプログラムの開発を行っている。活動に参加した個々のメンバーによる仲間への発信や誘い行動も見られる。環境啓発シンポジウムや、学会、メディアなどへの発信を試みたい。
本編参加者の状態としては、昨年の活動開始当初の不安感のようなものは、落ち着いてきており、関係性の安定がみられる。
定期的な参加者とのやり取りでは、活動以外の学校や、仕事、健康や、学習や進路、経済的事情などの不安が大きいことが訴えられることが多い。
施設の子供達のみならず、一般の子供たちも、学校での実習や文化祭、修学旅行も運動会も、自然教室や遠足までなくなっているので、親も子供も、活動機会をとても大切に感じてくれていることが伝わってきて、とても嬉しく思うが、逆に、これではいけないと強く感じる。

活動事務局のリモート環境は本助成によりほぼ完成した。セキュリティの強化、作業性の向上など、一部課題はあるが、助成活動以前とは大きく環境は改善した。
新たに参加するボランティアスタッフなどとの情報共有を図るための環境整備を進めていきたい。
テレビ会議や在宅作業などが可能となり、作業性が向上した。膨大な記録資料の管理や資料作成も、ずいぶん楽になりました。
今後は、データの保管や管理、共有などについて、スタッフ間で勉強しながら、運営能力を安定させていきたい。

資金分配団体様には、常に支援をしていただいています。実行団体合同のミーティングでは、他の活動団体さんの様子からヒントをいただいたり、全体をパンフレットにまとめていただいたことで、市や県の方々にも関心を持ってもらうことができています。

コロナ禍にあって、子供の活動機会を補償することは非常に重要なこととなり、ニーズも明確化されてきています。
活動指導者の指導、資材や活動のツールやノウハウの提供、など、B＆G さんの様々な支援を受けることで、具体的な活動スキルアップはもとより、地域の他の団体との関係もより良いものへと成長しています。子ども食堂や子供の居場所、学習支援、水辺、環境、川、自然地、里山、など、横断的、複層的に関係が構築されることで、いっそう子供たちの活動機会が増えていくことを願います。

経済的基盤、は、現状では課題となっています。
参加者の中には、経済的に逼迫している家庭も散見され、参加費の支払いを躊躇して参加を見送るケースがあります。本事業は、自己資金比率が決められているので、参加者負担として一定の参加費設定を行う必要がありますが、この部分を、地域の支援や他の助成金などで賄うことができると、参加比率が上がることが予想されます。

③　広報（※任意）

① 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） JCOM での夏活動紹介　小倉駅前広場でも放映。 コミュニティ FM での活動紹介　海や池でカヌーに乗る、海で遊ぶ、海岸清掃などについて

自団体 HP での活動紹介　（取材あり）　北九州市子育てマップ北九州での案内、
活動会場での、活動の告知、紹介（若松イオン、若松ボート、フードパントリー活動会場など）
北九州市子ども家庭局青少年課、夏チャレンジ（市内全小学生配布）活動紹介
非常にたくさんの申し込みがあった。（コロナと台風で半分中止　延期日程もコロナで活動会場が閉鎖）
活動を二部性、分割するなどして、安全管理、コロナ対策を行った。
市民活動サポートセンターにて随時活動展示と、チラシ等資料設置
北九州市市民活動サポートセンター　活動広報紙　取材応対　B＆G 制作パンフレットと活動チラシの常設
〃　フードパントリー活動時に、コミュニケーションブース設置と、アンケート協力依頼　活動紹介パネルの設置
自団体 HP にて活動の紹介、参加者の公募を行う
夢みらいわーく（市内学生向けキャリア教育イベント　8000 人来場）会場での展示。
NHK への海洋プラスチックゴミについての取材協力
北九州市東アジア文化都市作品順外展示会場での、活動紹介展示。若松ボート、環境ミュージアム、コムシティ、水環境館、グリーンパーク都市緑化センターなどでの展示

2.広報制作物等

各種パネル・東アジア文化都市活動の大型絵画作品（2m✖10m）

北九州市東アジア文化都市共催事業として絵画作品展示（活動と連動して制作・巡回展示）と活動紹介リリース参照
毎日新聞・西日本新聞掲載　展示作品には、大きく活動会場での活動が描かれている。
活動紹介パネルの制作　活動会場での持ち回り
北九州市水環境館（以降ボートレース若松や、市民活動サポートセンター、環境ミュージアム、グリーンパークなどで展示予定）

3.報告書等

B＆G 財団さんに作成していただいたもの
福岡県ボランティアセンター　活動広報誌　休眠預金事業記事掲載（昨年度、各地で展示、配布中）

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

自団体主催のものは実施できなかった。子供食堂フォーラム会場などでの告知を予定している

子どもたち560人 北九州の絵描く

縦2メートル×横10メートルのキャンバスに

市立水環境館に展示されている「住みたいまち、北九州」

「弱体化着実に進む」

北九州市と県警が連絡会議

工藤会対策の継続を強調

ピアノ高価買取！無料回収！
九州地方、中国地方 四国地方 どこでも下見OK！
下見運賃 査定・回収 0円
西日本ピアノ整備工場 0120-345-567

④規程類の整備に関する報告

1.	事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
	□完了　☑整備中
2.	整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
	□全て公開した　☑一部未公開　□未公開

→「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：5 月～6 月開催の理事会にて未整備の規程を制定し、順次公開予定（分配団体に相談済み）。
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

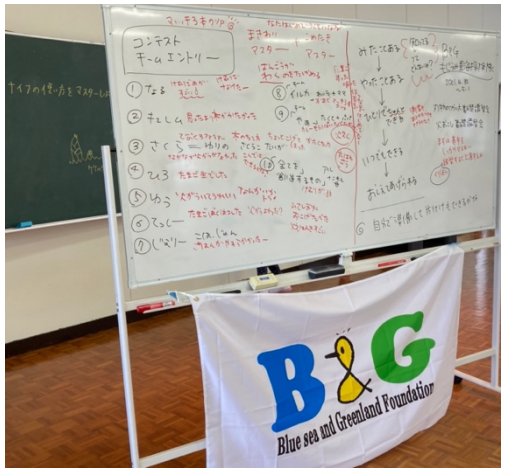
活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）

写真①事業の様子　７月海観察会

写真②スタッフ、社会人・学生ボランティア向け研修

写真③④4 月タケノコ探し活動　もじの海の目の前の里山にて

写真⑤5 月火起こし体験
薪割り、ナイフの使い方講習会　振り返り



写真⑥5 月もじ活動事前 KYT

写真⑦-123　自作の仕掛けで釣る釣り大会

1.仕掛けづくり講習会

2.餌の作り方講習

3.表彰式

写真⑨助成金で購入ライフジャケット

写真⑩釣り大会

写真(11)カヌー実習

秋 NHK 撮影

冬もちつき
縄文土器作り
どき焼き

春テント設営訓練

竹工作基礎研修

埋没ごみ　コドラート（30cm 四方）

調査

以上